

四季美しいふるさとを 次世代へつなげたい

(左から)
「1年中桜に出会える町・寄居」を代表する1本 氏邦桜
手つかずの自然が残る寄居の奥座敷 風布
大花火と舟山車の競演 関東一の水祭 寄居玉淀水天宮祭



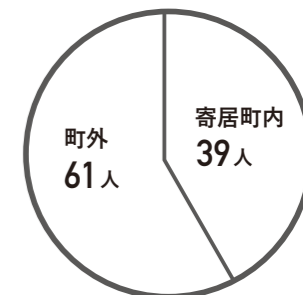
藻谷 浩介

もたに こうすけ

Motani Kousuke
地域エコノミスト

1964年山口県生まれ。東京大学法学部卒業。米コロンビア大学経営大学院修了。日本政策投資銀行参事役を経て、日本総合研究所主席研究員。平成大合併前の約3200市町村のすべてを私費で訪問し、地域特性を多面的に把握。地域振興や人口問題に関して精力的に研究・執筆・講演を行っている。著書に『デフレの正体』『里山資本主義』『東京脱出論』など多数。

若者世代 10年後に住みたいのは？
100人 アンケート



人の温かさを感じながら

実家を継ぐため、大学から7年間を過ごした京都から帰郷。大好きな寄居町で古きを学びつつ、時代に合った新しいカタチを模索していきたいと思っています。
丸山陽央さん(桜沢)



特別対談 これからの寄居

議会だより 100号 記念企画

+ 100人アンケート 若者世代

稼ぐ場も 使う場もある町に!!

今回は、議会だより100号の記念企画。「これからの寄居」について、日本総研 主席研究員 藻谷浩介氏にお話を聞きました。町の将来性について、客観的に見た示唆に富むご意見を伺うことができました。さらに、寄居町の若者世代100人の声を議員が取材。寄居を愛する多くの人の心に響く内容になれば幸いです。

「可能性の扉」を開くには？(峯岸)

た町が大きなダメージを受けています。しかし、コロナは必ず終息します。アフターコロナは大きく変わると言われていますが、なかなか変わらないのが日本です。そういった意味では、コロナに関係なく「町の方向性」がとても大切になります。寄居町には何度も来ていますが、いつも感じるの、空も山も川も、そして水も空気がきれいな町、ということ。明治・大正時代の寄居町の先人たちは、東京に対する寄居の価値がわかっていったんですね。鉄道を三線引き入れ、文化人も寄居に別荘を持っていました。今の軽井沢のように玉淀がにぎわったのも、そうした先人の先見性と言えます。ただ、今の寄居の人は自分たちの町の価値がわからなくなってしまうのではないですか。

江戸が大都市として整備される前は、関東の要衝と言え、小田原・八王子・寄居・高崎でした。寄居は、東京はもちろんです。上信越や関西方面に行くにも、とても便利です。京風の文化も残っていて、災害にも強い。それらを再認識して町の方向性を打ち出していけば、名実ともに「人が寄る町、居つく町」になるはずですが、ただ、必死に頑張らなくても暮らしている町が大きなダメージを受けています。しかし、コロナは必ず終息します。アフターコロナは大きく変わると言われていますが、なかなか変わらないのが日本です。そういった意味では、コロナに関係なく「町の方向性」がとても大切になります。寄居町には何度も来ていますが、いつも感じるの、空も山も川も、そして水も空気がきれいな町、ということ。明治・大正時代の寄居町の先人たちは、東京に対する寄居の価値がわかっていったんですね。鉄道を三線引き入れ、文化人も寄居に別荘を持っていました。今の軽井沢のように玉淀がにぎわったのも、そうした先人の先見性と言えます。ただ、今の寄居の人は自分たちの町の価値がわからなくなってしまうのではないですか。

（聞き手）峯岸議長 まずは、いま皆さんの一番の関心事である新型コロナウイルスについてお聞かせください。
藻谷 はい、このウイルスの特徴として、まず1点目に「死者の男女比」。男性は女性の約2倍です。2点目は「高齢者の死亡率が高い」ということ。死者中70歳以上が9割を占め、19歳以下はゼロです。年齢による偏りがこれほど大きいウイルスは珍しいですね。3点目は本日のテーマともつながりますが、都会と田舎の差が激しい「地域間格差ウイルス」ということです。日本全体の感染者の25%が東京23区に集中しています。

世界的に見ても日本は人口密度の高い国ですが、換気ができず飛沫がこもりやすい場が特に危険です。逆に言えば、三密を避けやすい田舎では、注意さえ怠らなければ、ほとんど心配いりません。メディアの影響を受け「コロナ警察」と言われるように住民同士が相互にプレッシャーをかけあうよりも、数字やデータを正しく見て対応することが重要だと思います。
ただの田舎ではない
経済や産業に目を転じてみると、地方創生ということでインバウンドを含む観光、集客をがんばっていた地域ほどコロナの影響が大きいですが、寄居町も一定の影響はありますが、そこまで深刻になっていないように思います。
藻谷 おっしゃるとおりです。確かに頑張っていた地域、成功例とされてき

けるといところが、寄居の利点でもあり、課題でもありますけれど(笑)。
地域内経済循環を拡大せよ
2021年度にホンダが県内の生産体制を寄居町に集約することになります。町では企業誘致をはじめ、雇用・税収にも大いに期待をしているのです。

藻谷 大企業が来ても、税収以外、地域の商業にはあまり恩恵がないと考える人がいますが、そうではないんです。町の税収が増えれば役場が使えるお金が増え、それが町の様々な事業者に回る。従業員の給与や、関係する地元企業の売上も同じで、使われずに貯め込まれるとか、東京でばかり使われるということにならず、地域内でも循環するということがとても大切です。言い換えると「地域内の誰かが稼いだお金が、地域内で使われて一周して返ってくる」ということ。これを「地域内経済循環」と言います。この地域内経済循環を大きくしていくことが、とても重要です。

関東の要衝「小田原・八王子・寄居・高崎」